# FUTABA LIFE GUIDE BOOK

移住をお考えのみなさまへ

# ふるさとを、つくろう

双葉町に笑顔の花を咲かせよう



# ふるさとを、つくろう

## 双葉町に笑顔の花を咲かせよう

ふるさとはその土地に関わる全ての人がつくるもの
そして先人たちから脈々と受け継がれできていくもの
双葉町は２０１１年３月12日に全町避難を余儀なくされ、
11年半もの間、人が住めない状況になってしまいました。
そこから人が戻り、移住者も暮らす
町としてリスタートしました。
双葉からやがて成長し、花が咲くように
双葉町も成長し、町中に笑顔の花を咲かせたい。
先人たちの思いを胸に新しい双葉町を
みんなでつくっていきませんか？
そして１００年後に双葉町に住んでいる人の心に
〝ふるさとふたば〟を感じてもらえるように。

## もくじ


双葉町ってこんなところ……4
ふたばびとインタビュー①　児玉 拓人さん……6
ふたばびとインタビュー②　深澤 諒さん……8
ふたばびとインタビュー③　綾部さんご家族……10
暮らし……12
働く……13
教育……14
医療……15
楽しむ……16
伝統の守り人……17
わいわいがやがや座談会……18
双葉町内マップ……20
広域マップ……21
支援制度・補助金……22


※本誌記載内容は2025年8月末時点のものです。
変更されている場合もあります。


©OVER ALLs



# 双葉町（ふたばまち）ってこんなところ

双葉町は東に太平洋、西に阿武隈山系をのぞむ海と山に抱かれた豊かな自然を誇る町です。福島県浜通り地方のほぼ中央にあたり、双葉郡の北東部に位置しています。

ＪＲ常磐線と国道６号が平行しながら町の中心部を南北に縦断し、南は大熊町、北は浪江町に接しています。また、国道２８８号で、県の中央部である郡山市と結ばれています。比較的温暖な気候が特徴で、東北地方にありながら冬は積雪が少なく、とても住みやすい自然環境に恵まれています。

２０１１年の東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故により全町避難を経験しましたが、その間も埼玉県加須市やいわき市で役場機能を維持し、２０２２年８月には双葉町内に本庁舎が開庁し、窓口業務も再開。開庁日には「おかえり」の声が響き、人と人との絆の深さを実感できる温かな光景が広がりました。困難を乗り越え、新たな拠点や暮らしの整備が次々と行われている双葉町は、今まさに新たなまちづくりが進む、前向きで人の温かさが感じられる町です。



双葉町
イメージキャラクター
「フタバくん」

## 双葉町基本データ

| 双葉町の住民登録者数 | 帰還者 | 88人 | 世帯数 |
|---|---|---|---|
| 195人（2025年9月1日現在） | 移住者 | 107人 | 142世帯 |

**双葉町役場**　〒979-1495 福島県双葉郡双葉町大字長塚字町西73番地4
TEL:0240-33-2111（代表）　FAX:0240-33-2115（代表）

2024年

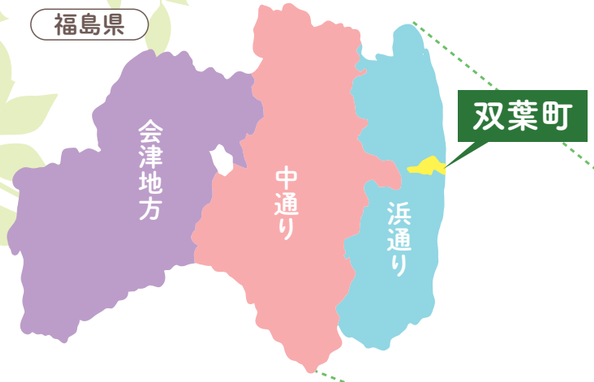
| 年平均気温 | 年平均最高気温 | 20.0℃ | 年降水量 | 1159.5mm |
|---|---|---|---|---|
| 14.9℃ | 年平均最低気温 | 9.8℃ | 積雪 | 0cm |

出典：気象庁（福島県 浪江 アメダス）

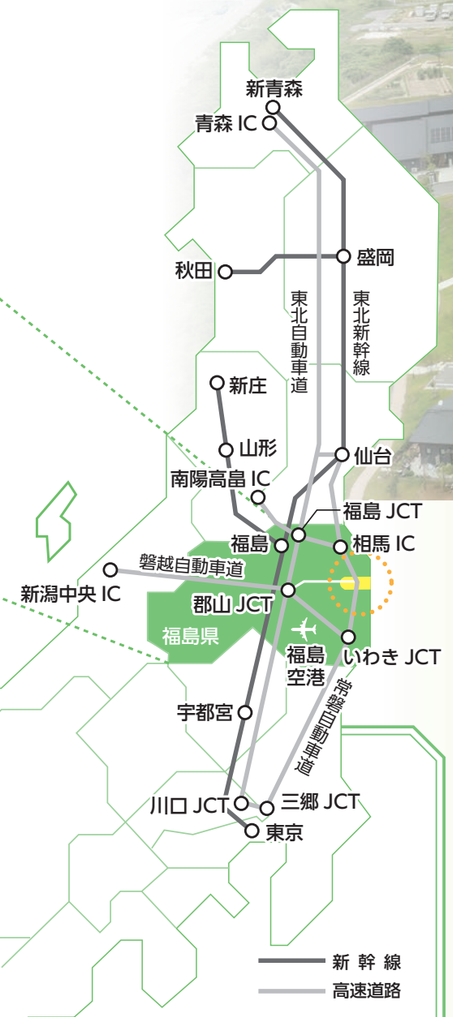




## 双葉町の位置




福島県は、山々に囲まれ歴史と伝統が息づく会津地方、交通の要で果物や文化が豊かな中通り、そして太平洋に面し温暖な気候と海の恵みを楽しめる浜通りの三つの地域に分かれており、多彩な魅力が一つの県にそろっています。




## 双葉町までのアクセス

**電車**

- 東京駅 ― 特急 約3時間15分 ― 双葉駅
- 仙台駅 ― 特急 約1時間30分 ― 双葉駅
- 郡山駅 ― 普通 約2時間 ― いわき駅 ― 特急 約1時間 ― 双葉駅　計約3時間

**新幹線+車**

- 東京駅 ― 新幹線 約1時間40分 ― 郡山駅 ― 車 約1時間30分 ― 双葉駅　計約3時間10分

**車**

［東京方面から］
- 三郷IC ― 常磐自動車道 ― 常磐双葉IC　車で約3時間

［宮城方面から］
- 仙台宮城IC ― 東北自動車道・仙台南部道路 ― 仙台若林JCT
- 仙台東部道路・常磐自動車道 ― 常磐双葉IC　車で約1時間30分

［郡山方面から］
- 郡山市 ― 国道288号 ― 双葉町役場　車で約1時間30分

① ふたばびとインタビュー

# ゼロからまちをつくる 楽しさを味わえる双葉町で 新しい挑戦をはじめる



広島で生まれ育ち、学生時代から人と人をつなぐ活動に取り組んできた児玉拓人さん。インターン活動を経て双葉町と出会い、2025年4月に移住しました。現在は双葉町の復興推進課で移住支援や復興まちづくりに携わり、自分の力を活かす挑戦を続けています。そんな児玉さんに、移住を決意した理由や挑戦していることなどを聞きました。

広島県 ▸▸▸ 双葉町

双葉町職員
**児玉 拓人** さん

## 環境をつくること

広島で生まれ育った児玉さんは、学生時代から「人と人をつなぎ、環境をつくること」に関心を持ってきました。高校では鉄道研究部に所属し、仲間と共に全国大会に挑み文部科学大臣賞を受賞しています。大学進学後は学生団体に所属し人事を担当、また長野県の地域おこし協力隊のインターンに参加するなど、人や地域を結びつける活動に積極的に関わってきました。その歩みの延長線上に、双葉町との出会いがありました。

## ゼロから新しいまちを

初めて双葉町を訪れたのは2023年、避難指示が解除されてから1年が経とうとしていた頃。地域おこし協力隊のインターンに参加した時に、現地のコーディネーターに双葉町でのワークショップを勧められたことがきっかけでした。町を歩くと、震災当時のまま残る自販機や2011年3月のカレンダーが目に入り、震災の爪痕を身近に感じたそうです。長い年月が経っても消えずに残る痕跡に、「当たり前はすぐに壊れてしまう脆いものだと強く感じた」と当時を振り返ります。しかし同時に、「何もないって





いう状態は、裏を返せばゼロから新しいまちを築ける可能性も秘めている」とも感じました。何もない町だからこそ、環境づくりの挑戦ができる。そうした強い印象が、双葉町で働く決意へとつながっていきました。

## ありのままを活かしたまちづくり

現在、児玉さんは双葉町の復興推進課に所属し、関係人口の創出や移住・定住支援、新たな復興まちづくり計画の策定などに携わっています。町の復興の特徴として感じたのは、元々あった建物と調和した造りの駅舎から見て取れる、ありのままを活かした他の町とは少し違ったまちづくり。静けさと落ち着きが、双葉町ならではの魅力を際立たせている、そこがとても好きなところだと、児玉さんは目を輝かせます。町職員の一員として、将来を見据えた計画づくりに対し、自身の考えを反映できることに、大きなやりがいを見出しています。

## 挑戦できるまちに

双葉町の未来像を問うと、児玉さんは「挑戦できるまちにしたい」と答えます。「一人で何かを成し遂げるのは難しいと思っています。だからこそ、人と人との出会いから自然に新しいことが生まれる環境を整えていきたい」と話します。偶然の出会いが新たな活動を生み出す偶発性を大切にし、単発のイベントにとどまらず、町の中で継続的に新しい動きが生まれる場を創出したいと考えています。また、人と人だけでなく、人と場所のつながりを意識しながら、仕組みや空間そのものが人を結びつける役割を果たせるまちを目指しているそうです。「機会を作らなくても、人が自然に集まり、つながりが生まれるようなまち。それが双葉町の魅力になっていくと思います」と期待を込めます。

## 必要なものは自分たちでつくりあげる

住みやすさの面でも変化を感じていると言う児玉さん。「スーパーや飲食店が増えて、日常の不便さはずいぶん解消されました。令和10年には学校も開校予定で、子育て世代にも安心できる環境になっていくと思います」と話します。さらに「都会みたいに全部そろっているわけじゃないですけど、逆に必要なものは自分たちでつくっていける。それが双葉町の魅力だなと思っています」と前向きな言葉が続きました。

## 移住を考えている方へ

新しいことに挑戦したい、自分の力を活かせる場所を探している、そういう人には双葉町は最適な環境です。ゼロからまちをつくる楽しさを味わえる場所は他にあまりないと思います。是非一緒にまちづくりをしていけたら嬉しいです。

PLUS INTERVIEW

## 双葉町で暮らしてみてどうですか?

**移住して感じたことは?**

移住当初は車がなくて大変でした。買い物や出かけるときに車があるとやっぱり便利だなと感じています。

**好きな景色は?**

郡山海岸の海は静かで落ち着けて、景色がとてもよくて、見ていると気持ちがすっと晴れますね。



② ふたばびとインタビュー

# コーヒーから広がる人の輪を、双葉町の未来へつなげたい



秋田県出身の深澤諒さんは、2025年に双葉駅前で焙煎所兼ドリンクスタンド「open roastery Alu.」を開業しました。窓辺から町の変化を見つめ、コーヒーを通じて人と人がつながっていく瞬間を大切にしています。双葉町で開業してよかったと思う理由を聞きました。

双葉町で開業

コーヒー焙煎所 兼
ドリンクスタンド
「open roastery Alu.」
**深澤 諒** さん

## 旅とコーヒー、焙煎との出会い

秋田県の出身で、元々旅をすることが好きだった深澤さんは、高校時代に日本一周を、大学時代には世界一周を経験しています。当時コーヒーは趣味程度で、旅先ごとに出会う個性を持ったコーヒーを満喫してきました。福島県との縁は、三島町の地域おこし協力隊として移り住んだことから始まります。観光協会で働くかたわら、近所の方から焙煎を教わる機会がありました。コーヒーが好きだったこともあり、そのおもしろさと奥深さに魅了されたそうです。友人にふるまった際に「美味しい」と言ってもらえることも楽しく、これを仕事にしたいという気持ちが次第に大きくなっていきました。



住　所　双葉町大字長塚字町45番地1
営業時間　木～日曜日：10:00～18:00、月曜日：6:00～13:00
定休日　火・水曜日

## 人のつながりが生むまちづくり

福島県で活動する中で、浜通りには知り合いも多く、自分の事業を新しく立ち上げる挑戦の場所としてふさわしいと感じました。応援してくれる仲間たちが多かったこともあり、浜通りに活動の場を移し、シェアハウスで暮らしながら準備を進め、2025年に双葉駅前に「open roastery Alu.」を開業しました。双葉町を選んだのは特別な縁があったわけではなく、店舗の規模や焙煎時の煙など、出店の条件が揃った場所だったからでした。しかし実際にお店を始めてみると、復興が進む町の変化を日々間近で感じられることが多く、ここで挑戦して良かったと強く思うようになりました。店舗ではおすすめの豆を使ったコーヒーを提供しており、町長が訪れることもあります。コーヒーを片手に「この町はこうなってほしい」と語り合える場が自然と生まれています。開業当初は1日数杯売れればいいと思っていたのですが、今では200杯を超える日もあるそうです。観光客、出勤前に立ち寄る人、地元の人たちがコーヒーをきっかけに会話を交わし、新しいつながりが生まれています。深澤さんはその場面を目にできることが何より嬉しく、窓から見える景色や駅前の賑わいの変化を日々感じながら、この町の一部になっていく感覚があるそうです。人の流れもよく見える場所でコーヒー屋を営むこと自体がまちづくりに直結しており、そのことを実感できるのが今は何よりの喜びとなっています。



## 可能性を秘めた場所

深澤さん曰く、「焙煎で大切にしているのは、豆のポテンシャルをそのまま伝えること。農家の方が育てた豆を100点の状態で届けたい、その気持ちで一つひとつの豆と向き合っています」とのこと。そこから自然に双葉町をコーヒーで表現するという思いも生まれ、いつか「双葉ブレンド」をつくり、町の名前を冠したお土産として形にできればと構想中です。

また双葉町で開業することについて伺ったところ、「双葉町は新しいことに挑戦したい人にとって、とても恵まれた環境で、周りにも起業した友人が多く、私自身も移住しここで始めて良かったと実感しています。双葉町そのものが変わっていく過程に関われるのは、この地域ならではの面白さです。移住を考えている人に伝えたいのは、まず一度来てみてほしいということ。短い滞在でも、町の人の温かさや、復興の最前線にある双葉町ならではの勢いを感じられるはずです。」と今後への期待も寄せていました。新しいことに挑戦したい人にとって、双葉町は大きな可能性を秘めた場所だといえるようです。



▲厳選された豆でお客様の要望に応えます



▲本格派のコーヒーをテイクアウト



▲こだわりの焙煎機

PLUS INTERVIEW

## 双葉町で開業してみてどうですか？

**開業して良かったことは？**

コーヒーを通じて人と人がつながり、双葉の町が変わっていく瞬間を毎日感じられるのが本当に嬉しいですね。

**好きな景色は？**

お店の窓辺から駅前を一望できるんです。人の流れや景色の変化を眺めながら、双葉が動いている実感を味わえるのが気に入っています。



③ ふたばびとインタビュー

# 双葉町でみつけた 家族と過ごす穏やかな時間



小学6年生から2歳までの4人の子どもと夫婦で暮らす6人家族の綾部さん一家。2024年の夏に横浜から双葉町へやって来ました。新しいまちでの暮らしのなかで、家族がどんな日々を過ごしているのかを聞いてみました。

神奈川県 ▸▸▸ 双葉町

**綾部さん ご家族**

## 家族との時間を大切にしたい

夫の直弥さんは横浜で自営業をしていましたが、仕事が忙しく週末も働かざるを得ない状況が続き、家族との時間が取れないことが悩みでした。大切な家族との時間をゆったり感じられる生き方をしたいと思ったことが、移住を考えるきっかけになりました。移住先に双葉町を選んだ大きな理由は「福島12市町村移住支援補助金」の存在。他県も候補にありましたが、手厚い補助は大きな後押しに。さらに趣味のウインドサーフィンを続けられる環境があることも魅力のひとつだったそうです。

## 子育てと地域の温かさ

妻の優希さんにとっては、仙台に住む母に会いやすい場所であることも重要な条件でした。横浜からでは仙台へ行くのも一苦労でしたが、今は親と会える距離にいられる安心感があります。子どもが4人いるため、学校や子育て支援は一番気になる点でしたが、給食費や体操着、修学旅行といった基本的な費用がほとんどかからないことが大きな助けになっているそうです。地域の人々は「子どもは希望だから」と温かい言葉をかけてくれて、子どもたちが地域に馴染んでいく後押しになりました。



## 安心できる居場所

長女の蒔千（まち）さんのお気に入りの場所は双葉町の旧駅舎です。放課後に友達と遊んだり宿題ができる場所で、地域の人から声をかけてもらえるのも嬉しいといいます。子どもが安心して過ごせる居場所があることは、移住後の大きな支えになっています。

町内には新しい施設が増えており、今後の雇用にも期待を寄せています。「迷っている方は、まず一度足を運んでみてほしい。実際に来ると町の雰囲気や空気感がよくわかる」と直弥さん。優希さんも「最初は不安だったが、地域の皆さんに支えられて安心して暮らせている。都会にはない魅力がきっと見つかる」と感じています。





## 大好きなひとときが見つかる

家族との時間をたくさん過ごせるようになったことが直弥さんにとって一番の変化だといいます。特に、家族で双葉町の海岸を散歩する時間は大好きなひとときで。落ち着いたらウインドサーフィンを再開し、乗馬などのアクティビティにも挑戦したいと考えているそうです。横浜にいた頃、人の多さや混雑に疲れることがあった優希さんも、今は子どもたちと夕方にゆっくりご飯を食べたり、近くの公園で遊んだりできることに日常のゆとりを感じています。特に産業交流センターの屋上からの景色は、いつ見ても素敵だといいます。蒔千さんも屋上から町を一望できる景色がお気に入りで、そこから新しい施設ができていく様子を眺めるのが楽しみだそうです。町の人や先生が優しく接してくれることも心強く、もっと友達が増えて一緒に集団登校できるようになる日を楽しみにしているそうです。

## これからの双葉町 魅力がきっと見つかる

「イオンがオープンしてからは、日々の中で『これがなかった！』があっても、すぐに買いに行ける安心感があります。子どもたちにもお使いを頼めるようになり、母は楽になりました」と優希さん。「他の店舗に比べたら少し品数は少ないですが必要な物が最低限揃っていればよいと思っています」と買い物の利便性について語ってくれました。

働き口の選択肢は多いわけではないですが、直弥さんは「30代40代であれば比較的働きやすい」と感じています。

PLUS INTERVIEW

### 双葉町で暮らしてみてどうですか？

**移住して良かったことは？**

夕方に子どもたちと一緒にご飯を食べられる時間が増えて、横浜の頃にはなかったゆとりを感じられて嬉しいです。

**好きな景色は？**

産業交流センターの屋上からの眺めがとてもきれいで、少しずつ変わっていく双葉の姿を見られるのが好きです。



# 働く

## 双葉町での働く情報

### 未来ワークふくしま
ふくしま12市町村移住支援センターが運営する移住ポータルサイトに、福島12市町村の求人情報などが掲載されています。

### ハローワーク富岡
求人情報の検索や雇用保険の手続き、職業相談などが可能です。

### HOOK
福島相双復興推進機構（官民合同チーム）による「福島ではたらく、移住きっかけマガジン」と題されたWebサイトです。福島県15市町村の求人情報が掲載されています。

### 双葉町商工会
専門家派遣・融資手続支援・セミナー開催・記帳指導・確定申告など経営の様々な相談を受け付けています。

## 今、双葉町で働く人




### 浅野撚糸株式会社



子安 結愛華（ゆうか）さん
総務グループ長
アテンドグループ長広報担当
岐阜県から移住して
いわき市在住双葉町勤務

浅野撚糸株式会社は岐阜県発の撚糸メーカーで、特許技術「SUPER ZERO®」を活用したタオルブランド「エアーかおる」で知られています。2023年、双葉町に工場と直営店「エアーかおる双葉丸」、「KEY'S CAFE」を併設した「フタバスーパーゼロミル」を開設しました。

#### 双葉町での暮らし
岐阜県出身の子安さんは、入社時に双葉町での勤務を打診され、「知らない土地で挑戦してみたい」という思いから移住を決意しました。

最初は町に受け入れてもらえるか不安があったそうですが、訪れるお客様から「遠くから来てくれてありがとう」「応援しているよ」と声をかけられることが多く、前向きな気持ちに。

「町の変化を間近で感じられる日々は、ここでしか得られない大切な経験になっています」と語りながら笑う姿が印象的でした。






「エアーかおる」は、吸水性・速乾性・軽量性に優れた“魔法のタオル”。双葉町と共同開発した「ダキシメテフタバ」の限定カラーも販売。福島県産や常磐ものを使ったカフェメニューなど、地域色を生かした企画も手掛けています。

エアーかおる双葉丸（ショップ） TEL 0240-23-7646
KEY'S CAFE 福島 双葉（カフェ） TEL 0240-23-7642
フタバスーパーゼロミル（事務所） TEL 0240-23-7648
住所 双葉町大字中野字舘ノ内1番地1
営業時間 10:00～18:00 定休日 月曜日




### ひなた工房 福島双葉

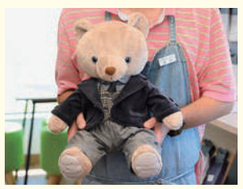


田中 洋平さん
ひなた工房 福島双葉 責任者
長野県から移住して
大熊町在住双葉町勤務

長野県にあるシャツメーカー「フレックスジャパン株式会社」。双葉町長から紹介されたこの地の「再生」というテーマと、思い出の品をリメイクする理念が重なり、双葉町に「ひなた工房」をオープンしました。

#### 双葉町での暮らし
田中さんは双葉町で働き始めて2年あまり。新しい建物やお店が次々と誕生する中、「若い世代が元気に活動する姿に日々刺激を受けています」と話してくれました。工房で制作する商品は「風の強いこの土地ならではの空気感を商品名やデザインにも取り入れています」とのこと。「今後は、オーダーや新商品の制作を通して、双葉町から“再生の物語”を全国に届けていきたいです」と熱く話してくれました。





工房のテーマは「思い入れを紡ぐ」。衣服など大切な人の思い出が詰まった品を、新たな形に仕立て直します。裁断時にゴミを出さない設計、端切れを重ねて再び生地として蘇らせる「スラッシュキルト」など、サステナブルなものづくりを実践しています。

ひなた工房 福島双葉
TEL 0240-33-4884
住所 双葉町大字中野字舘ノ内35番地1
営業時間 10:00～17:00 定休日 日・月曜日



# 暮らし

## 住むところ

### 公営の「双葉町駅西住宅」86戸が2024年6月に完成しています。
この住宅には、住民が利用できる菜園スペースが設けられていることもあり、
地域のつながりや自給的な暮らしを支える場として注目されています。





◀ 土間玄関、縁側などの特徴的なデザイン



集会所、軒下パティオ▶などの広い共有スペースがあります



▲住民同士が野菜を育て、収穫し、交流する場として機能しています

### 双葉町空き家・空き地バンク
空き家・空き地を売りたい貸したい方に物件を登録していただき、情報をインターネットで公開するサービスです。

### 未来ワークふくしま
福島県の 12 市町村への移住・定住・就業を支援するポータルサイトです。
震災後に避難指示の対象となった地域での、新しい暮らし方や働き方を提案しています。

## 双葉町には集いの場がたくさん!!

### 双葉町結ぶ会
双葉町に暮らす人たちが懇親を深め、住民のつながり、健康を守るために、2023年7月に設立されたコミュニティ団体です。住民同士の交流を深めるためのイベントを企画・運営しています。

【活動内容】
交流会、夏祭り、芋煮会、クリスマス会、餅つき大会など、住民同士の交流イベントを開催。





### お裁縫クラブ
毎週火曜日午前10時～12時、駅西住宅広場の集会所にて活動しています。だるまさんの座布団を作ったり、エコたわしを作ったり、ポーチを作ったりしています。 【会費】お茶代200円/月



### 朝カフェの会 in ふたば
双葉町に暮らす人・関わる人が気軽に集える場を作ろうと2023年11月に町民有志で始め、毎月10人～20人が参加するイベントになっています。FUTAHOMEに併設するコーヒー焙煎所兼ドリンクスタンド「open roastery Alu.」でドリンクを購入すれば誰でも参加できます。入退場自由、参加費無料。その時々で、双葉郡ゆかりのスイーツの提供もあります。
【場所】地域交流拠点FUTAHOME（フタホメ）
【日時】毎月第4月曜日 午前７時～９時






### 生涯学習講座
町民同士の交流や生きがいづくり、教養を高めることを目的に月2回、様々な講座を開催しています。
【対象】町民及び町内就業者など
【実施講座】モルック、コーヒー講座、
町内史跡巡り、非常食作り、
陶芸など



# 医 療

## 双葉町診療所



2023年2月、震災後初となる双葉町内の医療施設が双葉駅西側に開所しました。

・診　療　日：第2月曜日、火曜日、第1・3水曜日、木曜日（午前）、金曜日

※診療日は変わる可能性がありますので、お問い合わせは、双葉町健康福祉課へ。

TEL 0240-33-0131

・診療科目：内科

・診療時間：9:00～12:00、13:00～15:30（駐車場有）

・受付時間：8:50～11:30、13:00～15:00

双葉町内に診療所は１箇所のみですが30Km圏内には様々な医療機関があります。

## ふたば医療センター附属病院

・富岡町（双葉駅から車で約20分）

・24時間365日救急医療の提供のほか、地域の医療機関からの依頼を受け、訪問診療や訪問看護を行っています。

・診療科目：内科／救急科

## 南相馬市立総合病院

・南相馬市（双葉駅から車で約30分）

・いわき市を除く浜通りの市町村で構成される相双医療圏の災害拠点病院となっています。

・診療科目：内科／循環器内科／血液内科／消化器内科／腎臓・高血圧内科／糖尿病・内分泌代謝内科／呼吸器内科／脳神経内科／外科／整形外科／脳神経外科／形成外科／心臓血管外科／小児科／産婦人科／耳鼻咽喉科／眼科／泌尿器科／リウマチ科／心療内科／皮膚科／健診科／麻酔科／救急科

※また、双葉地方広域市町村圏組合消防本部では病院の紹介を行っているので、病院をお探しの際はお問い合わせください。TEL 0240-25-8561

## 福島県立医大附属病院（建設中）

県立大野病院跡地に2029年度以降に開院予定。

※2025年9月時点での発表

## 医療情報ネット

近隣市町村ほか福島県内の医療機関を探すサイトです。




# 教 育

## 双葉町の「新しい学校」

双葉町では、旧双葉中学校跡地に2028年4月「認定こども園・義務教育学校」（施設一体型）を開園・開校します。幼児期から義務教育段階にかけて外国語に親しむ環境を整えつつ、多様な国籍の子どもを受け入れる体制も構築しながら、子どもたちの興味・関心に合わせて、自分のやりたいことに夢中になれる教育活動を展開します。

さらには、地域に開かれた図書館等を含む「共創スペース」には、地域住民や双葉町を訪れる大人が集まり、子どもたちと共に学び合える機能をもたせます。災害時には避難所として防災拠点の役割も担い、教育・国際性・地域共生等を融合した新たな学びの場を目指しています。

### 近隣の学校

浪江町立 **なみえ創成小学校・中学校**



小学生は隣町の浪江町立なみえ創成小学校・中学校に通っています。就学前児童は同じく隣町の浪江町立浪江にじいろこども園で保育・教育を受けています。小中学校とこども園は隣接しています。小学生・中学生は、町によるスクールバス扱いのタクシーによる送迎があります。

浪江町立 **浪江にじいろこども園**




**子ども向け送迎サービス**




広野町

福島県立 **ふたば未来学園中学校・高等学校**

双葉駅から常磐線利用と徒歩で約1時間

南相馬市

福島県立 **原町高等学校**

双葉駅から常磐線利用と徒歩で約1時間

南相馬市

福島県立 **相馬農業高等学校**

双葉駅から常磐線利用と徒歩で約1時間

南相馬市

福島県立 **小高産業技術高等学校**

双葉駅から常磐線利用と徒歩で約40分

## 子育て応援ポータルサイト

福島県が運営するサイト「すくすくひろば」にはさまざまな情報が掲載されています。

# 楽しむ

## 買う

### イオン双葉店



［住 所］双葉町大字長塚字町西36番地1（双葉町役場北側）
［ＴＥＬ］0240-23-5222
［営業時間］8:00～19:00
［定休日］年中無休
［取扱品目］食料品、日用品

### ファミリーマート双葉町産業交流センター/S店



［住 所］双葉町大字中野字高田1番地1（双葉町産業交流センター1F）
［ＴＥＬ］0240-25-8026
［営業時間］7:00～20:00
［定休日］双葉町産業交流センターに準ずる
［取扱品目］コンビニ商品

### サンプラザふたば



［住 所］双葉町大字中野字高田1番地1（双葉町産業交流センター1F）
［ＴＥＬ］0240-23-5343
［営業時間］10:00～17:30
［定休日］火曜日
［取扱品目］お土産品

### 伊藤物産株式会社



［住 所］双葉町大字中野字竹ノ花7番地
［ＴＥＬ］0240-23-7806
［営業時間］8:00～17:00
［定休日］土・日曜日、祝日
［取扱品目］事務用品、資材

## 食べる

### ペンギン



［住 所］双葉町大字中野字高田1番地1（双葉町産業交流センター内フードコート）
［ＴＥＬ］090-7444-9850
［営業時間］10:00～15:30
［定休日］日曜日、第2・第4土曜日、第1・第3・第5木曜日
［メニュー］ハンバーガー、日替り弁当 など

### ふたばのおらほや



［住 所］双葉町大字中野字高田1番地1（双葉町産業交流センター内フードコート）
［ＴＥＬ］090-2991-6077
［営業時間］10:30～14:00
［定休日］日曜日、第1・第3・第5土曜日
［メニュー］各種定食、そば・うどん類

### せんだん亭



［住 所］双葉町大字中野字高田1番地1（双葉町産業交流センター内フードコート）
［ＴＥＬ］0240-23-5051
［営業時間］10:00～15:00（材料がなくなり次第終了）
［定休日］火曜日 ほか
［メニュー］なみえ焼そば

### レストラン エフ



［住 所］双葉町大字中野字高田1番地1（双葉町産業交流センター2F）
［ＴＥＬ］080-5842-2640
［営業時間］11:00～14:30（L.O.14:00）
［定休日］火・日曜日
［メニュー］週替わりランチプレート

### 食事処 貞



［住 所］双葉町大字中野字堂ノ前27番地（複合施設「さくらの里 双葉」内）
［ＴＥＬ］0240-25-8889
［営業時間］11:30～21:00
［定休日］月曜日
［メニュー］味噌ラーメン、餃子 など

### 立食いPAZ




［住 所］双葉町大字新山字久保前76番地1
［営業時間］朝/6:00～9:00 昼/11:00～14:00
［定休日］土・日曜日、祝日
［メニュー］そば・うどん など

### 飲食店3店が2026年春頃オープン予定



双葉町で18時以降に営業する飲食店は現在「食事処 貞」のみですが、双葉駅東地区に公設商業施設が整備され、居酒屋や鉄板焼き店、カフェが出店予定です。



# 伝統の守り人



夢ふたば人 会長 **中谷 祥久さん**

1980年福島県双葉町生まれ。地元建設会社に就職し、消防団に所属。震災と原発事故で避難し、2011年からいわき市の仮設住宅へ。避難先の仲間と「夢ふたば人」を結成して、双葉町の活性化に取り組んでいます。

## 双葉町ダルマ市

双葉町で永く続く伝統行事。縁起物の「双葉ダルマ」は年間を通じて販売され、多くの人が買い求めます。双葉町にとってダルマ市は、伝統文化の継承と未来への希望をつなぐ大切な行事です。







## ダルマ市に掛ける情熱

### 当たり前にあった祭りだったから

ダルマ市は子どもの頃から当たり前にある行事で、町の人々にとって双葉町の日常の一つとして身近な存在でした。社会人になり消防団に加わると、運営側として祭りに携わるようになり、改めて地元にとって大切なお祭りだと実感したそうです。やってよかったと心の底から感じられる出来事でした。

### まちのみんなをつないだ想い

震災後、避難先の仮設住宅で仲間と語り合う中、「ダルマ市をやろう」という思いが一致。震災だからできないという理由にはしたくなかったといいます。最初は3人で構想を描いていたものの、徐々に仲間が増えていき、仮設住宅という避難先ながらも開催にこぎつけました。久しぶりに顔を合わせた町民が涙ながらに抱き合って再会を喜ぶ姿を目にし、ダルマ市を開催できて心からよかったと思えました。祭りが終わった後、最初に開催を夢見た仲間と共に涙を流したその瞬間は、今も忘れられない記憶となっています。

### 双葉町の未来、子どもたちへ

現在は盆踊りや復興住宅でのイベントにも関わり、仲間と櫓（やぐら）を組み、太鼓を叩きながら活動を広げています。当時のダルマ市を知らない子どもたちも増えてきましたが、その子どもたちが双葉町の伝統を守っていきたいと感じられるように、行事を受け継ぎ、守り続けていくことを願っています。

### 盆踊り



双葉町の伝統を継承する夏の盆踊り。避難解除後に復活し、地域の絆を深めています。

### 相馬野馬追町内凱旋行列



騎馬武者が町内を練り歩く、伝統行事の凱旋パレード。震災後に復活し、地域の誇りを象徴しています。

### 標葉（しねは）せんだん太鼓保存会



伝統を継承する創作和太鼓団体。震災後も活動を続け、文化の絆を守っています。

### 奉納神楽大会



地元保存会が伝統芸能を披露する新春行事。文化継承と地域交流を目的としています。



# わいわいがやがや座談会

わたしたち、双葉町で働いています！

現在、双葉町で働かれていたり、生活をされている女性陣に座談会形式でお話を伺いました！



富岡町出身
菅原 智美さん



双葉町出身
佐藤 葉月さん



双葉町出身
加藤 奈緒さん



双葉町出身
山根 光保子さん



司会
小泉 良空さん
大熊町出身

**小泉さん　まず始めにみなさんの双葉町での普段の暮らしはいかがですか？**

**山根さん**　基本は自炊ですが、夜も営業している定食屋さんもあるので、子どもを連れて行けてとても便利です。以前は隣の浪江町まで買い物に行っていましたが、近くに「イオン双葉店」ができたことで生活が大きく変わりました。毎日気軽に買い物ができるのは本当に助かります。

**佐藤さん**　私もそれは感じますね。以前は南相馬市の大型スーパーの「フレスコキクチ」やいわき市の「イオンモール（いわき小名浜店）」などで買いだめしていましたが、「イオン双葉店」ができてからは仕事帰りに寄れるので楽になりました。ちょっと足りないものはネットで注文できるので、不便さはほとんど感じません。

**加藤さん**　最近は飲食店も少しずつ増えてきているので、自炊に頼り切らなくてもいいのはありがたいですね。浪江町や原町区（南相馬市）に行けばラーメン屋さんなどお気に入りのお店もあって、外食の楽しみもありますよね。

**菅原さん**　私は東京にいた頃よりも、町の広報誌をよく読むようになりました。イベントや行事の情報を調べたり、知り合いや自分の子どもの写真が載っていないか探すのが楽しみです。住民の数がまだ少ないので、掲載される機会も多く、毎号チェックするのが習慣になっています。

**小泉さん　確かに「イオン双葉店」がオープンして買い物は変わりましたね。では次に休日は主にどのように過ごされていますか？**

**山根さん**　休日は地域のイベントに参加することが多いです。大きな行事だけでなく、この双葉郡では小さな催しも数えきれないほどあるので、全部に行ききれないくらいです。ほかにも散歩をしたり、「旧駅舎の多目的スペース」で子どもと遊んだりと、街中で過ごす時間が多いですね。自然が豊かなので、散歩の途中は虫取りが恒例になっています。

**菅原さん**　子どもと楽しめるイベントが多いのはいいですよね。

**加藤さん**　私はランニングが趣味なのですが、今まで住んでいた場所よりも自然を感じられる静かな道や海岸近くの道なども走れるので、自分の世界に没頭できてとても気持ちがいいです。

**佐藤さん**　私はライブ鑑賞が趣味で、仙台や東京までも軽い気持ちで行けます。休日に思い立って車で遊びに行ける距離なのがありがたいです。家族とはスキーに出かけることもあり、海のスポーツから雪遊びまでいろんなアクティビティを楽しめるのは、この地域ならではの魅力だと思います。



**山根さん**　海沿いを散歩するのはやっぱり気持ちいいですよね。人が少なくてプライベートビーチのような感覚になります。自転車があると行動範囲も広がるし、自然が豊かなので町の中を走るだけでもとても気持ちがいいと思います。

**小泉さん　私も、双葉駅に特急が停車することもあり、気軽に東京などによく行きますね。それではこの地域ならではの子育てについて教えていただけますか？**

**菅原さん**　子どもが遊べる室内の遊び場が、近くの浪江町にある「ふれあいげんきパーク」や富岡町の「わんぱくパーク」などあるので、子どもとよく利用しています。都心だと時間制で長くいられないことが多いですけど、ここだとしっかり遊べるし、施設もしっかりしているので助かりますね。

**山根さん**　分かります。子育てって大変だと思っていて、双葉町だから特別ってことはないですよね。むしろ町の人が「子どもの声って本当にいいよね」って言ってくれるので、こっちも安心できますし、子どももちゃんと地域に受け入れられているなと感じます。

**菅原さん**　ほんとに町の人はすごく優しいですよね。特に若い世代の人たちが子どもに声をかけてくれることが多くて。



東京にいたときは、子どもと一緒にいると周りの目を気にしてしまうことが多かったんですけど、ここでは「子どもが町にいるのが嬉しい」って雰囲気があります。

**山根さん**　自然の豊かさも大きいですよね。散歩をしていると、子どもが「いろんな葉っぱの色があるね」なんて言ったりして。そういう姿を見ると、のびのび心を育んでいるんだなって実感します。

**菅原さん**　医療の面はちょっと気になっていたんですが、近くの南相馬市（原町区）に小児科（はらまちスマイルクリニック）があって夕方まで診てもらえるので本当に助かっています。かかりつけ医もできて安心して子育てできています。

**小泉さん　私も仕事をしている中で地域の人の温かさは感じますね。では最後に移住を考える方へメッセージを頂けますか？**

**加藤さん**　双葉町にはまだ足りないものもありますが、都会のようにあふれかえっていない分、一つひとつの出来事に特別さを感じられる気がします。ゆったりとした時間の中にある小さな豊かさが、この町での暮らしの魅力です。

**佐藤さん**　私にとっては生まれ育ったふるさとで、町の人が優しいこともあり、心から安心できます。雑音が少なく、ゆっくり自分と向き合えるのも魅力です。心に寄り添った暮らしを望む人には、きっと合うと思います。

**菅原さん**　私は移住者なので不安もありましたが、実際に暮らしてみると何とかなることが多くて、むしろここにしかないものをたくさん見つけました。迷っている方は、まず一度来てみると良さが分かると思います。

**山根さん**　双葉町にいると自然も人の優しさも豊かに感じられます。当たり前のことに感謝できる暮らしができる、そんな町です。ぜひ一度、双葉町に来てみてほしいですね。

**小泉さん　今回はご協力頂きまして誠にありがとうございました。双葉町に興味のある方はぜひご参考にしてください！**



ぜひ、わたしたちの町に来てみてください！



# 広域マップ

休日に少し足を延ばせば、楽しめるところたくさんあります！




## ① フレスコキクチ 東原町店




新鮮な生鮮食品や惣菜、ベーカリー、クリーニング、ATMなど多彩なサービスを提供し、利便性が高い地域密着型のスーパーマーケットです。フレスコアプリをお持ちの方は平日日替りクーポンなど配布しております。お得な買い物が楽しめる工夫がされています。

福島県南相馬市原町区北原本屋敷186番地　0244-25-3911

## ② ふれあいげんきパーク




幅広い年齢のこどもが楽しめる屋内型の子育て支援施設です。空中ネット遊具やアスレチック、ボルダリングなどが揃い、天候を気にせず安心して楽しめます。授乳室完備で、乳幼児と一緒でも気軽に利用できます。

福島県双葉郡浪江町大字権現堂字矢沢町6番地1　0240-23-5233

## ③ 葛尾村復興交流館 あぜりあ




地域の復興と交流を目的とした施設です。休憩や会議、演奏会、展示会も行える交流スペースがあり、情報発信スペースでは簡易な調理が可能なキッチンやビジター対応用の窓口も備えており、かつらお物産展や村民作品展示も行っています。

福島県双葉郡葛尾村落合字落合20番地1　0240-23-7767

## ④ クマSUNテラス




大熊町のにぎわいをめざしてオープンした、新しい交流拠点です。カフェやレストラン、コンビニ、キッズルームなどがあり、買い物や食事、子連れでの休憩にも最適。広々とした空間で、家族や友人とゆったり過ごせます。

福島県双葉郡大熊町大字下野上字大野116番地6　0240-41-9948

## ⑤ わんぱくパーク




天候に左右されず安心して遊べる屋内施設です。大型遊具や三輪車コース、砂場などが揃い、子どもたちが思いきり体を動かせます。無料で利用でき、プレイリーダーによるサポートも充実。親子のふれあいや交流の場として人気です。

福島県双葉郡富岡町中央3丁目11番地　0240-25-8590

## ⑥ 天神岬スポーツ公園




太平洋を望む絶景の公園です。広大な敷地には温泉施設「しおかぜ荘」、キャンプ場、レストラン、サイクリングターミナルなどがあり、自然と触れ合いながら多彩なレジャーが楽しめます。芝生広場や遊歩道も整備されており、家族連れに人気のスポットです。

福島県双葉郡楢葉町大字北田字上ノ原27番地29　0240-25-3113

## ⑦ cafe & gallery 秋風舎




築200年の古民家を移築・再生したカフェ&ギャラリーです。自然豊かな環境の中で、地元食材を使ったランチやスイーツを提供し、ゆったりとした時間を楽しめます。店内にはギャラリースペースもあり、アート作品の展示や地域文化の発信も行っています。

福島県双葉郡川内村下川内字牛淵509番地　070-2811-6899

## ⑧ ニッ沼総合公園




自然と調和した広大なレジャー施設です。パークゴルフ場やBBQ広場、文化交流施設「清明館」、カフェ、直売所などが揃い、家族連れや観光客に人気。スポーツ合宿やイベントにも対応し、地域の交流拠点として親しまれています。

福島県双葉郡広野町下北迫大谷地原65番地3　0240-27-2131



# 双葉町内マップ

家族や仲間と気軽におでかけ！




1. シェアサイクル カーシェアリング 【移動】
2. 旧双葉駅舎 【交流施設】
3. 双葉町役場
4. イオン双葉店 【ショップ】
5. open roastery Alu. 【ショップ】
6. FUTAHOME 【チャレンジショップ】
7. コインランドリー てるてる坊主 【ランドリー】
8. 双葉町診療所
9. 駅西住宅 【公営住宅】
10. 双葉郵便局
11. 双葉伊達屋SS 【ガソリンスタンド】
12. 田中合名会社双葉SS 【ガソリンスタンド】
13. 伊達屋セルフ洗車場
14. フタバスーパーゼロミル・エアーかおる双葉丸 【工場・ショップ】
15. 東日本大震災・原子力災害伝承館



【博物館】

16. 双葉町産業交流センター



【交流施設・ショップ】

17. 双葉の湯 祐 【温浴施設】
18. ビジネスホテルARM双葉 【宿泊施設】
19. 郡山海岸

★ FUTABA Art District 【アート】

# 支援制度・補助金

様々な支援制度・補助金がありますので、ご相談ください。

## 移住関連支援

### ●来て「ふたば」住宅取得支援事業補助金（移住に対する住宅取得支援）




双葉町への移住・定住を促進し、定住人口の増加と地域活性化を図るため、新たに町内に転入し自ら居住する住宅を取得する方や住宅を取得しリフォームする方に対して、来て「ふたば」住宅取得支援事業補助金を交付します。

お問い合わせ
双葉町役場 復興推進課（TEL 0240-33-0127）

双葉町HP

### ●福島県12市町村移住支援金

東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う避難指示等の対象となった12市町村［田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯舘村（以下、「12市町村」という）］において、県外からの新たな住民の移住の促進により、新たな活力を呼び込むことで、12市町村の復興・再生の更なる加速化を図ることを目的として、新しい地域を作り出すなどチャレンジを行う意欲のある、県外から12市町村への移住者に対して、移住支援金を交付します。

お問い合わせ
双葉町役場 復興推進課（TEL 0240-33-0127）

福島県HP

## 子育て支援

### ●出産祝金

2人目以降のお子さんが出生された方で、保護者の方が1年以上町に住所を有し、ご家族の方全て町税等滞納がないなどの条件を満たす方に、「出産祝金」を支給します。

お問い合わせ
双葉町役場 健康福祉課（TEL 0240-33-0131）

双葉町HP

### ●入学祝金

出産祝金支給実績のあるお子さんが小学校に入学される際、入学祝金を支給します。第2子のお子さんについては5万円、第3子以降のお子さんについては10万円を支給します。

お問い合わせ
双葉町役場 健康福祉課（TEL 0240-33-0131）

双葉町HP

### ●保育料及び給食費等助成

お子さんが通う対象施設に納付する保育料及び給食費等を助成します。平成23年3月11日時点で双葉町に住所を有しておらず、令和4年8月30日以降に双葉町に転入した方が対象です。

お問い合わせ
双葉町役場 健康福祉課（TEL 0240-33-0131）

### ●ひとり親家庭等入学児童祝金

ひとり親家庭等で入学児童を扶養している保護者の方に祝金を支給します。小学校入学時、中学校入学時、それぞれお子さん1人につき1万円を支給します。

お問い合わせ
双葉町役場 健康福祉課（TEL 0240-33-0131）

### ●出産育児一時金

お問い合わせ
双葉町役場 健康福祉課
（TEL 0240-33-0131）

双葉町HP

### ●児童手当

お問い合わせ
双葉町役場 健康福祉課
（TEL 0240-33-0131）

双葉町HP

### ●児童扶養手当

お問い合わせ
双葉町役場 健康福祉課
（TEL 0240-33-0131）

双葉町HP

## 起業・就業支援



### ●福島県12市町村起業支援金

東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う避難指示等の対象となった12市町村において、復興・再生の更なる加速化を図ることを目的として、県外から12市町村へ移住して新たに起業する者に対し、起業に必要な経費の一部を補助します。

お問い合わせ
福島県12市町村個人支援金コンタクトセンター
（TEL 0570-057-236）

福島県HP

### ●ふくしま小規模企業者等いきいき支援事業

小規模企業者や商店街等の創意工夫ある取組に対し、地域に密着した商工団体が、計画づくりから事業実施後のフォローアップまで一体的な支援を行うとともに取組に必要な経費の一部を補助します。

お問い合わせ
双葉町役場 復興推進課
（TEL 0240-33-0127）

双葉町HP



## 奨学金返還支援



### ●福島県の将来を担う産業人材確保のための奨学金返還支援事業

県では、県内事業所への就職を希望している方の奨学金返還を支援する制度を実施しています。

お問い合わせ 福島県庁 雇用労政課（TEL 024-521-7290）

福島県HP

## 交通・宿泊支援

### ●ふくしま12市町村移住支援交通費等補助金

18歳以上かつ県外在住で、近い将来12市町村への移住（Uターン・Iターン等）を希望または検討している方を対象に、いずれかの12市町村を訪問、現地活動を行う際の交通費と宿泊費の一部を補助します。

お問い合わせ ふくしま12市町村移住支援センター
（TEL 0800-800-3305）

未来ワークふくしまHP

## ＼双葉町にはこんな支援もあります！／

### お試し住宅







双葉町への移住を検討される方に、双葉町の時間や空気を感じていただくために、短期間の滞在が可能なお試し住宅を開所いたしました。
2泊3日～4泊5日までの滞在が可能で、生活に必要な備品が揃っています。
移住体験プログラムへの参加が条件となります。
詳しくは双葉町移住・定住情報サイト「ふるさとを、つくろう」からお問い合わせください。

所 在 地：双葉郡双葉町大字長塚字谷沢町114番地1
※12月29日～1月3日は休業します。

### 移住・定住相談 双葉町移住定住相談センター





旧三宮堂田中医院診療所（洋館）に、移住定住の相談窓口が開設されました。
旧三宮堂田中医院診療所は、長い間双葉町民に親しまれてきた大正時代の洋風建築の建物です。煉瓦蔵と共に2022年に双葉町で初めて国の有形登録文化財に登録されました。
双葉町民の記憶に残る「洋館」の外観を維持し、2023年から2024年にかけて、屋根や外壁及び内装の改修を行いました。
相談のお申込みについては、事前に双葉町移住・定住サイト「ふるさとを、つくろう」からお問い合わせいただくとお待たせすることがありません。



所 在 地：福島県双葉郡双葉町大字長塚字町12番地
営業時間：平日 9:00～17:00 ※土日祝日は予約制にて面談を受け付けています
電話番号：080-1752-9353　休 業 日：土・日曜日、祝日、年末年始

まずはお問い合わせください

一般社団法人 ふたばプロジェクト

〒979-1471 福島県双葉郡双葉町大字長塚字谷沢町100番地3
TEL 0240-23-7637 FAX 0240-23-7638 Email：info@futaba-pj.or.jp

ふるさとを、つくろう。
双葉町移住・定住情報サイト
（futaba-iju.com）



ふるさとをつくる、それは未来をつくること。

発行：双葉町

〒979-1495 福島県双葉郡双葉町大字長塚字町西73番地4　TEL 0240-33-2111（代表）　FAX 0240-33-2115（代表）